

廃棄物収集車燃料にBDF

CO₂削減分を寄付

業に
基金
清の
北の
市

札幌市東区の廃棄物収集「北清企業」(大嶋武社長)は7日、バイオディーゼル燃料(BDF)活用により削減した二酸化炭素(CO₂)排出量に
企業や市民から廃食用油を回収し、まちづくり活動を支援する市の「さぼーFを製造。廃棄物収集車の燃料としている。昨年度はBDF17万リットルを製造、13万6千リットルを

自社車両に使用した。同社創立40周年を機に「市民への恩返しに」と、軽油に代えてBDFを使うことで削減できたCO₂量1トにつき、千円を寄付していくことにした。

同社によるとBDF1リットルの使用でCO₂を2・64キログラム削減できるという。まずは昨年度の削減量359トに当たる35万9千円を寄付する。

今回の寄付は「モエレ沼公園の活用を考える会」が12月に同公園で行うイベントに助成される。イベントでは市民にペットボトル1本分の廃食用油の持参を呼び掛けてもらう予定だ。大嶋社長は「市民の協力を受けて、年間千トの削減が目標。子供への環境教育も行っていきたい」と話している。

(東野純也)